



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2014/05/16(金)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 147

## 第28回北海道中学校バスケットボール新人大会 決戦大会

札幌市立手稲中学校 丸谷 美和子

1月12日・13日に旭川で新人戦決戦大会が行われました。12月の末に南北に分かれて行われた新人戦の上位3チームが初日はリーグ戦、2日目はトーナメントで試合を行いました。

今年は、女子は南大会より札幌市立清田中学校、札幌市立東月寒中学校、恵庭市立恵庭中学校が、北大会からは帯広市立帯広第八中学校、帯広市立第四中学校、帯広市立西陵中学校が出場しました。

2日間すべての試合を観ることはできなかったのですが、女子の試合を観て気になったことや感想などを書かせていただきたいと思います。

試合の詳しい結果については、北海道ジュニアバスケットボール連盟のHPをご覧ください。

### 【ボールを失わないために】

今回の決戦大会、その前の北大会を観ても、プレスディフェンスにひっかかりボールを失い、連続失点をして試合の流れが大きく変わる試合がいくつかありました。

チームの戦術として、オールコートでのプレスディフェンスは持つべき物だと考えますし、特に新人戦のこの時期にはプレスダウンが徹底されていないチームが多いため、非常に効果があると思います。

それにしても、今回はずいぶんとボールを失うケースが多いように感じました。

レシーバーのミートの弱さとキャッチ後のボールの位置の悪さ、パスナーのパスの弱さと不正確さが原因だと考えられます。しっかりボールミートし、ボールムーヴすることの大切さは私が毎年お手伝いさせていただいていたU14・U15のトップエンデバー合宿で鷲野先生が何度もくり返しおっしゃっていたことです。相手が強くなればなるほど試合のレベルが高くなればなるほど、この基本中の基本に立ち帰ることが、大切なボールを失わないためにとても重要です。

### 【より力強く】

全体的にプレーは上手ではあるけれどもきれいすぎるというか軽いように感じました。本来バスケットボールは、接触が起きたらペナルティーを科せられる、接触が起こらないスポーツですが、実際には、ゴール下でのリバウンドの競り合いやゴール下でのシュートでは身体を張ってプレーすることがほとんどです。しかし、シュート後にボックスアウトをして少しでも良いポジションを確保してボールを取るとか、相手を背負ってしっかり面を取ってボールをもらうプレーができない(好まない?)選手が多い印象を受けます。相手が強くなるときれいにかわすだけのプレーだけでは通用しません。接触を嫌がらない強さを身につけることが必要だと思います。もともと身体の強い選手もいると思いますが、成

長期のこの時期にしっかり食事を取り、練習から接触をくり返して強い身体と力強いプレーを身につけて欲しいです。

#### 【シュート力】

北海道の選手のシュートは、ドライブからのランニングシュートもしくはアウトサイドの3ポイントが圧倒的に多いと思います。

今大会もドリブルからのプレーが多かったと感じましたが、その中でステップを上手に使うシュートをする選手が増えたように感じました。ディフェンスを上手にかわして、逆にうまく身体を寄せて、またはタイミングを微妙にずらして等、とても上手にシュートまで持って行き、シュートを決めたりファールを誘ってフリースローを得ることができる選手がいました。ただ、今大会はサイズの大きい選手が少なかったため通用しましたが、全国のもっとサイズのある選手と対戦したときにこの技術が通用するかどうかは難しいと思います。

そうなる自分より大きい選手にブロックされない距離でシュートを打つ必要が出てきます。全国のチームは、シュートの確率がとても高いですが、特にペイントエリア付近のジャンプシュート、ミドルシュートの確率が非常に高いです。北海道の選手ももっとミドルシュートが打てるようになると良いと思います。

#### 【最後に】

今大会は、1年生の活躍も目を惹きました。1年生が2年生に負けじとプレーしており、今後の成長が非常に楽しみです。

今回この大会に出場したチームは、夏に旭川で行われる全道大会を経て、香川県での全国大会を目指していることと思います。また、決戦大会に残れなかったチームも充分チャンスがあると思いますので、ぜひ目標を高く持って頑張ってくださいと思います。

そして、ジュニアの成長により、他のカテゴリーもさらにレベルアップして、北海道のバスケットボールがますます発展することを切に願っています。